2007年度
防災教育
チャレンジプラン
ワークショップ
Disaster Management Education Challenge Plan Workshop
2007年度
防災教育
チャレンジプラン
成果発表
2008年度
防災教育
チャレンジプラン
決定・発表
日時：2008年2月16日（土）10:30～17:00
2008年2月17日（日）10:00～12:30
会場：建築会館ホール（東京・田町）
主催／防災教育チャレンジプラン実行委員会
後援／内閣府、総務省消防庁、文部科学省、国土交通省、全国知事会、全国市長会、
全国町村会、日本赤十字社、全国都道府県教育委員会連合会、日本PTA全国協議会

目　　次

１．摂南大学　ボランティア・スタッフズ……1
２．静岡県立裾野高等学校……1
３．地球防災隊……2
４．なでしこ防災ネット……2
５．名古屋大学災害対策室 歴史災害教訓伝達プロジェクト……3
～1944 東南海・1945 三河地震
６．特定非営利活動法人　ひまわりの夢企画……3
７．藤枝市立藤枝中央小学校……4
８．東北福祉大学ピンチヒッター……4
９．横浜市立保土ヶ谷中学校……5
１０．和歌山県立有田中央高等学校……5
１１．安田学園高校　建築クラブ……6
１２．国立大学法人　宮城教育大学附属小学校……6
１３．たかしま災害支援ボランティアネットワーク「なまず」……7
１４．奈良市立帯解小学校……7
１５．社会福祉法人岐阜アソシア視覚障害者生活情報センターぎふ……8
１６．高知県立高知東高等学校……8

1 摂南大学 ボランティア・スタッフズ

プラン名 災害時に活動できる 青少年ボランティア・リーダーの育成セミナー

応募部門 大学の部　　**所在地** 大阪府寝屋川市

プランの目的・特徴等

災害に対しては平時から自分たちの住む地域にどのような危険と問題があるかをよく理解し、その実情に応じて自主的に対応ができるようにしなければならない。日頃知っているつもり、あるいは大丈夫だと思っていることが、身に付いていないことを認識し、それが非常に大切なことだという防災意識を育む。大学生ファシリテーター（摂南大学ボランティア・スタッフズ）が青少年（中高生）を育てるユニークな取り組み。

団体紹介

日本は地震が多い国です。いつ・どこで大地震が発生しても不思議ではありません。身の回りで大災害が発生した時、けが人が出た時、あなたはどうしますか？大災害が一旦発生すれば、救助隊の到着は遅れます。そんな時に、「緊急サバイバル術」を身についていれば、救助隊に助けられるまでの２～３日間、生命を維持することができます。私たち「摂南大学ボランティア・スタッフズ」は、緊急サバイバル術や緊急救命のライセンスをもっているので、それを皆さんに教えながら、「いざ！」というときに活躍できる青少年リーダーを育てます。

2 静岡県立裾野高等学校

プラン名 「地域防災の架け橋となる裾高生」

応募部門 高等学校の部　　**所在地** 静岡県裾野市

プランの目的・特徴等

・総合的学習「環境と防災」を学習することによって、高校生として防災に関する知識技術を学ぶ
・高校生による防災に関する情報の発信　、・地域住民、特に子ども達に知識を還元

■プランの内容
○H20・ 4～H21・ 3　総合的学習「環境と防災」実施、○「子ども防災教室」等の防災イベント（事前指導も含む）を年数回実施、　○全国の防災に関するイベント参加

団体紹介

富士山の裾野に位置する創立１０４年を迎える総合学科の高校です。災害に対応できる能力や態度を育成することを目的として、教科「環境と防災」を設けて授業を行っています。また、環境防災倶楽部の生徒を中心に、大学や地域の防災関係機関と協働して地域住民へ情報を発信するなど、防災啓発活動を積極的に推進しています。

3 地 球 防 災 隊

プラン名 担い手を増やし、園児への防災教室を開く

応 募 部 門 大学・一般の部　　**所在地** 奈良県奈良市

プランの目的・特徴等

この活動から担い手が生まれ、将来防災に関わる人を増やすことが出来る。また、多くの人々と関わることができるため、保育士の大学や保育士、保育園、幼稚園、家庭や地域へ自然と多方面に防災意識が広がっていく。

防災についての知識と保育についての知識が共有されることにより、今までにない新しい教材ができる可能性がある。その過程で防災をさまざまな面からとらえることができ、それぞれ違う役割や専門を持った人々と共に活動することで防災の幅を広げていくことができる。

団 体 紹 介

兵庫県立舞子高校在籍時に防災教育を受けた経験を生かし、卒業後も個々それぞれで活動の場は違うものの自らが担い手となり、多くの場で防災活動を行ってきた。そこで得た知識や情報を共有し、防災に触れる場をつくる担い手の育成を行うことにより持続的に防災教育が広がるという新しい団体を創った。

4 なでしこ防災ネット

プラン名 女性の視点での防災対策「日ごろの備えと家族・地域の絆」

応 募 部 門 一般の部　　**所在地** 神奈川県秦野市

プランの目的・特徴等

“女性への視点・女性からの視点で考える“災害と女性”支えあう災害に強い社会“をめざし、防災士として新しい知識の習得、技能の向上など、スキルアップを図り、防災講演、実習活動を他の団体とお互い得意分野で協力し合って行事を推進してきた。１団だけでプラン実行するのは準備、参加者募集も大変だが、２～３団体で協力して開催すると参加者も多層、講師依頼も団体の仲間から相互協力、お互いフォローしあいながら実践してきた。ボランティア団体とコミュニケーションをはかり、日常的に協力し合える体制作りをしている。

団 体 紹 介

神奈川県央の西部に位置する秦野市を拠点にH17年8月、防災士に設立準備会開催の呼びかけをし、行政、地域ボランティア10団体とネットワークをはかり、主に親子、障害者を対象に防災町づくり活動を推進してきた。

”女性への視点／女性からの視点”で考える　災害と女性　支えあう災害に強い社会をめざしている。

5 名古屋大学災害対策室 歴史災害教訓伝達プロジェクト ～1944 東南海・1945 三河地震

プラン名 土地の古老 の 三河地震 被災体験談 から 学ぶ、地 震 ・ 災 害 の し く み と 防 災 の あ り 方

応募部門 小学校高学年の部　**所在地** 愛知県名古屋市

プランの目的・特徴等

整理されまとめられた体験談ではなく、「被災者の生の体験談に直に接しその迫力を知り、豊かな災害イメージを醸成させる」ことと「専門家の指導のもとに生の体験談から防災教訓を抽出して、実際の防災行動が芽生えるような防災教育を行う」ことの両方を視野に入れていることが本プランの最大の特徴である。

団体紹介

地元・愛知県を襲った 1944 年東南海地震と 1945 年三河地震は、戦争中に起こったため被害の様子があまり知られていません。そこで我々は、被災者に直接話を聞いて、埋もれている被災体験の掘り起こしを進めてきました。この集めた被災体験を活用し、地域の様々な人と協力しながら防災教育にチャレンジしています。

6 特定非営利活動法人　ひまわりの夢企画

プラン名 防 災 楽 習 迷 路 の 制 作 と 出 前

応募部門 小学校高学年の部（低学年も可）　**所在地** 兵庫県神戸市

プランの目的・特徴等

防災楽習迷路は、震災で家が迷路のようになったという想定です。木製の格子状のパネルを繋ぎ、組み立てて迷路にして行きます。前方が見えるが、同じ風景なので迷います。従来の前が見えない迷路とは、ここが大きく異なります。外からも様子が見えるので、安全で精神的にも安心です。防災の大切さを絵カードにし迷路の行き止まりに置き、子どもたちが入口から入り、指示した数の絵カードを探し、出口から出てくるというものです。遊び心の中に防災心と、その手法を刷り込んでいく教育材です。

団体紹介

阪神淡路大震災での経験を活かそうと中越・能登・中越沖地震と、復興支援活動を３年間続けています。活動をしながら、３０年先と言われる東南海地震を想い、未来を担う子供たちに防災教育の必要性を感じ、楽しく学ぶ体験型の教材をと「防災楽習迷路」を考案し制作しました。今年からは、防災教育に力を注ぎたいと思います。

7 藤枝市立藤枝中央小学校

プラン名 ひとりひとり の 大事な命を 守るために
親子で学ぼう 「ＰＴＣ活動～３つの体験活動」

応募部門 小学校低学年の部、小学校高学年の部　**所在地** 静岡県藤枝市

プランの目的・特徴等

■ 全校生徒と父兄が通学路単位で 28 組に分けブースを回る。一組１５～２５名の小グループで全て参加型訓練とし、低学年でも理解できるように言葉をやさしくし、地域に根付いた地図、数字を子供達に教える。

■ 一般論でなく災害時必要なことを覚え、市民が自分達で助け合うという視点で訓練を行う。工作のような「防災の知恵」のコーナーを設けることで小学校低学年も興味を持てるようにする。

団体紹介

東海地震が心配されている地域にある小学校です。校訓「たくましくなかよく」のもと子どもたちの笑顔・活気いっぱい、花いっぱいの学校です。平成１８年度より、年に１回、ＰＴＡによる「ＰＴＣ活動～防災～」が企画・運営されています。平成２０年度は「通学路ＤＩＧ・医療・防災の知恵」について親子参加型訓練を行い「当事者意識を高める・地域に広げる」ことをめざしています。

8 東北福祉大学 ピンチヒッター

プラン名 非常食や身近な食材を使ったアレンジレシピ集の作成

応募部門 大学・一般の部　**所在地** 宮城県仙台市

プランの目的・特徴等

レシピ集作成にあたり特徴として４つ挙げられる。
①災害時に配布される物資や身近な食材を使用したレシピにする。
②料理は簡単で幅広い年代に対応したものにする。
③食物アレルギーをもった方にも対応したレシピにする。
④カロリー計算をし、栄養バランスを表示することでその料理にどのような効果があるのかを知ることができるようにする。

団体紹介

防災に興味を持った学生が集まり、地域に密着した防災に関する活動を行うことを目的に、団体を発足しました。昨年は非常食作りや減災カルタ大会など行ってきました。現在は防災に関するすごろくを作成中で、今後も防災ツール作成を基盤に、活動を行っていきます。

9 横浜市立保土ヶ谷中学校

プラン名 読むマップ『超時空安全・安心マップ』をつくる

応募部門 中学校の部　　**所在地** 神奈川県横浜市

プランの目的・特徴等

成果物は、『子供の地図』ではなく、かなり成熟度が高い地図として完成されるものである。
まもなく成人する中学生が大人の感覚で思考することは、地域活動参画のスタートとなりうる。
また、このマップは、作成された時点で終了とするのではなく、中学生は後輩に引き継ぎ、先輩になったら地域人として継承し、古いデータを整理して新しいデータを補うことをすれば、普段の安全マップとして、また、非常時の対応マップとして被害軽減に役立つマップになるのである。

団体紹介

学校マニフェスト（中期学校運営計画）に『おらが村の中学校』を掲げ、中学生の生活安全を通して『地域への貢献と連携』を総合的学習の一環として推進しています。地域を総体的に見つめることにより、人権・福祉なども含め、安心の街づくりを学び取る姿勢を大切にしています。

10 和歌山県立有田中央高等学校

プラン名 「ハイスクール防災講座」

応募部門 高等学校の部　　**所在地** 和歌山県有田川町

プランの目的・特徴等

① 「ハイスクール防災講座」を３年生全員が授業（総合学習）として受講することで、学校教育の中で高校生レベルの体系的かつ実践的な防災教育・訓練ができる。

② 生徒だけでなく教職員、地域にも防災の学習・訓練等の機会を提供し、かつ地域と交流することで地域に貢献できる。

団体紹介

「本校は明治４０年に三村組合立の吉備実業学校として創立され、昭和２３年に和歌山県立吉備高等学校となりましたが、平成９年に約１３０科目の選択科目をもつ総合学科として生まれ変わり、校名を有田中央高等学校に改変しました。本格的な防災教育へのチャレンジは平成２０年度からです。」

１１　安田学園高校　建築クラブ

プラン名　防災力を高める　（地元地域の防災強化、高校生の防災知識の習得、地域住民の防災意識の定着）

応募部門　高等学校の部　　**所在地**　東京都墨田区

プランの目的・特徴等

高校では防災という科目が無く、教える機会がないため、木造耐震診断を行うことにより実践活動を通じて防災に関する知識を吸収し、意識を高めることができる。さらには地元地域に貢献でき、防災に対する必要性を高めることが出来る。
・今年得た知識を元に、さらに充実した木造耐震診断を行う。
・プレゼンテーション、成果発表を行い、多くの地元地域の方々に理解を得る。

団体紹介

今年度より建築科３年生の実習の１部門に木造耐震診断実習を設け、選択者１３名でチームを作り、墨田区内の木造耐震診断を実施しています。建築クラブ（１０名）も上記同様に木造耐震診断を実施しています。
また、墨田区耐震補強推進協議会の方から耐震に関するレクチャーをいただき、さらに墨田区の建設会社の協力で現場見学をさせていただき、耐震に関する知識を深めています。

１２　国立大学法人 宮城教育大学附属小学校

プラン名　９９％！本当にやってくる宮城県沖地震
～みんなの力で立ち向かえ～

応募部門　小学校高学年の部（中心に低学年も視野に入れて）　　**所在地**　宮城県仙台市

プランの目的・特徴等

○　自らの地震体験等を基に，自分の疑問から課題を設定し，体験活動や調査活動などで得られた情報を災害の状況に応じて活用することができる能力を育成する。【追求する力】
○　課題解決の結果を自分のことばで話したり，分かりやすい絵や図などを活用したりしながら伝えることができる能力を育成する。【表現する力】
○　自分の身の回りで大きな地震が発生した場合，自分の命を守るために何をすべきかを考えたり，仲間や地域の人々と協力し合ったりすることができるができる能力を育成する。【かかわりあう力】

団体紹介

今後 30 年以内に９９％の確率で宮城県沖地震の発生が予想される仙台市の中心部にある学校です。平成 18 年度より「仙台学」（総合）の一環として，『防災』をテーマに学習を展開しています。平成 20 年度は，小学校における体系的な防災教育の開発をメインとしながら活動を展開していきます。

１３　たかしま災害支援ボランティアネットワーク「なまず」

プラン名　視覚障害者のための 防災対策 ＣＤ 製作

応 募 部 門　一般の部　　**所在地**　滋賀県高島市

プランの目的・特徴等

視覚障害者に限らず、固有のハンディのある人たちは、日頃自分の生活に合わせた動線の中での生活をしている。そこには防災対策はない。防災に興味関心がないわけではなく、できないのである。何をしていいのかわからないのだ。今回この視覚障害者向けの防災対策ＣＤを作ることによって、阪神淡路大震災での視覚障害者の実際を聴き、来たるべき時に備えて何をどうしなければならないのかを知り、命を守るために生かしてもらえたらと期待している。

団 体 紹 介

テーマは『備えと構え』。突然の災害時、一人一人が命を守るため日頃の『備え』の必要性と緊急性を訴える。漫才、劇、腹話術など 17 項目から対象に合わせてプログラムする地域防災出前講座は、県内外へ年間 50 回に達する。

１４　奈 良 市 立 帯 解 小 学 校

プラン名　「奈良県学校地震防災教育推進プラン」を活用した 帯 解 小 学 校 防 災 教 育 プ ラ ン

応 募 部 門　小学校低学年の部、小学校高学年の部　　**所在地**　奈良県奈良市

プランの目的・特徴等

- １年生～６年生までの全学年で、「奈良県学校地震防災教育推進プラン」を活用した防災の取組を行う。
- 家庭・地域との関わりを深め、防災マップ作りやゲストティーチャー招聘など幅の広い取組を行う。
- ワンポイント避難訓練等、将来確実におきる東海・東南海・南海地震と起きた場合に最悪の結果となる奈良盆地東縁断層地震を想定した地震災害に対応できる訓練・体験を取り入れる。

団 体 紹 介

本校は学級数７、児童数１４４名の小規模校で、奈良市の南に位置し、校区の東には南北に奈良盆地東縁断層帯が走っています。平成１８年１月に奈良県より出された「奈良県学校地震防災教育推進プラン」をもとに、学校の中に防災教育を取り入れ、各学年での実践を進めています。

15 社会福祉法人岐阜アソシア 視覚障害者生活情報センター ぎふ

プラン名

防　災　運　動　会
（一緒にできるよ　助け合おう！楽しもう！）

応募部門 大学・一般の部　　**所在地** 岐阜県岐阜市

プランの目的・特徴等

消防署のご協力などをいただき、起震車や煙トンネル、はしご車の展示などを自由に触れられること。
身近な道具でけが人の搬送などの訓練　要援護者がどこにいるかなどの対応強化　お互いに助け合うという意識の発見　さらに救命講習などを通じてＡＥＤの使用法などを理解する。
また情報障害といわれる視覚障害の方々に防災のためのハンドブックなどの点字版や音声版を作成し配布することにより認識が高まると予想される。

団体紹介

特別支援学校に通う児童生徒は要援護者です。地域の方々は「助けなければ！」という意識の反面「どうしたら？」とも感じています。防災運動会を開催することにより、「見えない・見えにくいけれどできる！」「一緒にできた！」という実践により、不安を安心に変えることを目指しています。

16 高知県立高知東高等学校

プラン名

学校から地域へ・学校へ
～防災文化を広げるプロジェクト～

応募部門 高等学校の部　　**所在地** 高知県高知市

プランの目的・特徴等

本校は２００５年度防災教育チャレンジプランに取り組んだことをきっかけに、この３年間、どの学校でも取り組める教材を模索しながら、様々な取り組みをすすめてきました。
これまでの取り組みをベースにしながら実践をすすめ、より学校現場の実態に合う、活用できる教材を作成します。また、制作物はフリーで活用されるよう、各校に配布します。また、生徒が学んだことなどを地域等で展示・発表をすることで、防災文化を他校や地域に広げるきっかけとします。

団体紹介

総合学科と看護科（５年一貫）を併設する生徒数約７３０名の全日制高校です。２００５年度から「地震列島と私たち」という防災を学ぶ選択講座を開講すると同時に、防災教育チャレンジプランをきっかけに継続的に防災の取り組みをすすめています。

高知市立一宮小学校体育館での防災キャラクターショー⇒

ＭＥＭＯ

防災教育チャレンジプラン実行委員会

委員長	林　春男	京都大学防災研究所巨大災害研究センター　教授
委　員	池内 幸司	内閣府参事官（地震・火山担当）
	井上 浩一	防災ネットワークプラン　代表
	卜部 厚志	新潟大学　災害復興科学センター　准教授
	鍵屋 一	板橋区総務部契約管財課長
	金谷 裕弘	総務省消防庁国民保護・防災部防災課　課長
	国崎 信江	危機管理対策アドバイザー　危機管理教育研究所
	栗田 暢之	特定非営利活動法人レスキューストックヤード　代表理事
	五島 政一	国立教育政策研究所 教育課程研究センター基礎研究部 総括研究官
	沢野 次郎	災害救援ボランティア推進委員会　事務局長
	篠田 貴司	東京都江東区立深川第五中学校　教諭
	諏訪 清二	兵庫県立舞子高等学校　環境防災科　科長
	田村 拓	株式会社ＣＳＫホールディングス　執行役員
	中川 和之	時事通信　防災リスクマネジメント Web 編集長
	永峰 好美	株式会社プランタン銀座　取締役
	平田 直	東京大学地震研究所　教授
	福和 伸夫	名古屋大学大学院　環境学研究科　教授
	舩木 伸江	神戸学院大学　学際教育機構　防災社会貢献ユニット　専任講師
	細川 顕司	財団法人市民防災研究所　事務局長
	松尾 知純	BOUSAI-GATE Partners　防災危機管理教育事業コンサルタント
	南島 正重	東京都立小石川高等学校　教諭
	務台 俊介	自治体国際化協会　ロンドン事務所長
	山谷 英之	内閣府企画官（防災担当）、災害情報調査室長
	渡邉 淳	文部科学省　研究開発局　地震・防災研究課　防災科学技術推進室　室長

（五十音順・敬称略）

防災教育チャレンジプラン

■　防災教育チャレンジプラン実行委員会事務局

株式会社パスコ　コンサルタント事業部　都市基盤部内
〒153-0043　東京都目黒区東山 1-1-2　東山ビル 5 階
電話：03-6412-2505（代）
FAX：03-6412-2593
E-mail：info@bosai-study.net

■　防災教育チャレンジプランホームページ
http://www.bosai-study.net/